

15
42

明治三十五年七月

清國賠償金引當露國新公債募集
顛末并露佛同盟下露國財政關係並
外務省

外務省

明治三十五年六月十六日授 主務 政務局 第...

公信第九號

受第ハハハ八號

手印

清國賠償金引当露國執公債
募集願未并露佛同盟上露
國財政ノ關係

清國賠償金引当露國執公債募集願
未并露佛同盟上露國財政ノ關係
ル財政当局者ノ意見四月十三日
サントピラスブルグ及大蔵省週報
等に掲載有之及之付別冊ニ摘譯
且ス之ニ對スル意見ヲ附シ及報
告ニ同シ查閱相成度也此致
申進及教具

在外公館

明治三十五年五月五日

在オランダ領事館

領事 飯島龜太郎



外務大臣男爵小村壽太郎殿

公債發行九種報告書

露國ノ清國賠償金引当

新公債発行ノ件

露國政府ハ本年三月清國政府ヨリ回收スル
賠償金ヲ引当トシ自國及揚南ノ市場ニ流
ラ四方利付國債ヲ募集セリ這般募集高
ハ舊債八千九百九十五万九千九百九十九
千三百五万九千九百九十九万九千九百九十九
受ケレメ其残額一億三千八百九十九万九千九百九十九
フランクアト、アムステルダム、聖彼得堡ニ於ケル他ノ
銀行及商會クシテ引当セシムルノ規定ナリ別
紙報告書ニ爾後該公債ハ非常ノ好景況
ヲ呈シ業ニ應募中ハ、發行高ノ十倍ニ達

在外ハ不館

シ市價ノ如キモ泰商ニ在レテ下ラサル由抑モ該
公債ハ一國匯事件ニ依リ損害ヲ被リタル被
ノ東清鐵道會社及其他ノ何人ノ賠償金ニ充テ
一之レヲ以テ私立鐵道會社ノ貸下資金費途
ニ充ルモノニシテ今ニ露政府ヨリ貸下金ヲ受ケル私
立鐵道會社ヲ數記スレバ左ノ五會社ナリト云フ
一モスコロニウヤンカウ、ルイジンスク鐵道會社
一モスターキーエス、ウイロネツ鐵道會社
一リヤサン、ウラルスク鐵道會社
一南東鐵道會社
一ウラゲカフカズ鐵道會社
前記諸鐵道會社ノ目下敷設シ居ル線路中
ニ軍事上特別ニ竣工ヲ急クハキ必要アルモノ

ナリ露政府カ新公債ノ募集ヲ得ル所ノ金額ヲ
 是等会社ニ貸下クル所以ハ全ク私鉄道会社ヲ
 保護シ線路ノ交通機關ヲ完成セムルノ目的ニ
 在リトモナリト云フ往者露國政府カ公債ヲ募集
 スルニ當リ之レヲ佛國市場ニ於テシテ未ダ曾テ佛國以
 外ノ市場ニ於テ試ミタルコトナク隨テ世人中ニ往々
 露國歲計ノ膨脹軍備ノ擴張及其他ノ不生産
 的失費ノ夥多ナルヲ見テ臆測ヲ逞テ露國政府
 改メ先モ暴露即ノ危ニ在リ僅カニ佛露同盟ノ力ヲ
 假リテ其破綻ヲ免レ居ルニ過キサルカ如キ謬説ヲ
 據クモノナキニテ現ニ露國無二ノ友邦タル佛國我
 ラスラ或ル一部ノ論者中ニハ露國政治家カ政治
 上ニ於ケル露露佛同盟ノ緣故ヲ利用シ巧ニ佛國ノ
 資金ヲ吸收シ去リ遂ニ佛國ノ財源ヲ枯竭セシ
 ムルニ至ルベシト唱ヘ暗ニ佛國資本家ヲシテ露
 國內ノ事業ニ投資シ又露國公債ノ募集ニ應
 ジルノ危險ナルヲ諷刺警戒スルモノスラチキアラ
 ハ是レ單ニ臆測者ノ罪ノミニテ未ダ露國政府
 家自身モ未ダ佛國以外ノ國ニ於テ露國ノ信用カ
 奈何程墜圯ナルモノカ付テハ尤モ懸疑スル所ナリ
 シ以テ今ニ至ルマテ外國市場ニ露國公債ヲ募
 集スルノ事ナカリシナリ然レバ現時ノ財政當局者ノ胸
 中ニハ必ラズ時機ヲ見テ公債ノ募集ヲ佛國以外
 ノ市場ニ於テ之レヲ試ミ其成否ニ依ツテ露國財
 政ノ信用如何ヲトスルト同時ニ其好結果ヲ奏ス
 ルニ於テハ露國財政界ノ為メ外資回收ノ途ヲ

在外公館

伸張シ他日ノ用ニ備フントノ考案ニ存セラルハシ
而シテ今ヤ其機熟シ清國賠償金引当新公
債ヲ蘭獨二國ノ市場ニ於テ募集シ非常好結
果ヲ得ル能ク其目的ヲ貫徹スルヲ得タリキ此
ニ於テカ機ヲ視ルニ敏ナン者國財政家ハ尚ホ一歩
ヲ進メ以除害ニ露國財政ノ鞏固健全ナルヲ著
シテ外國人ニ知ラシメ且ツ前途ノ如ク佛國一部ノ新
案カ露國事業ニ投資スルノ危險ヲ唱道スルハ左
ク相憂ニ過キスシテ又露國ハ佛國資本ヲ注入ス
ルハ露國ニ露佛同盟ナルモノトハ干渉ナキヲ明カニ
シ以テ佛國資本家ヲ安堵セシムルヲ必ス要スヤリ
蓋シテ露國ノ利益ヲ云フモ佛國以外ノ市場ニ於テ
偉大ノ財源ヲ查察シ得タルハ國家經濟ノ益ニ大
ニ慶賀スル所ナルハレトモ之レト同時ニ他國ニ於
ケル露國財政ノ信用ヲ確立シ同國資本家
ヲシテ向後益々露國ノ事業ニ向ツテ投資
セシムルノ好意ヲ表スセルハ其最モ望望セシ所ナ
ルニ於テ於テ予現任大臣ハ露國新聞ト稱セ
ラル、ジナルナル、ヤントヒータスブルクハ存月十三日発刊ノ白
紙上ニ於テ此ノ好機ニ乘リテ元來露佛同盟ト佛國
資本ノ注トハ全ク無キ關係ニシテ一部ノ佛國新聞
紙ニ露國ハ佛國同盟ヲ利用シ佛國資本家財
源ヲ潤渴セシムルトノ説ハ全ク妄謬無稽ナルヲ詳
カニ論辨セリ左ニ其大要ヲ抄録シテ參考ニ資セ
ン

在外公館

吾人眼孔ヲ廣クシ我國ト同盟國タル佛國ト對



係ヲ研究スルニ吾人ノ政治上ノ利益ト財政經濟
 上ノ利益トヲ明晰ニ區別シ互ニ混交セシメザル
 ヲ得策ト思惟ス此時佛國ニ於テハ一新聞記者ガ
 鼓吹スル所ノ議論ハ此ノ二者ヲ混交シタル者ニ
 シテ誤謬度モ亦甚シキト云フベシ吾人ハ兩帝國ノ利
 益ヲ之レヲ考フルニ此ノ謬見ヲ極力排斥スルニテ
 ラズンバ其影響者ガ所少カラサルハシレ信ス且日
 秋清國新公債ノ募集ガ獨蘭二國ニ於テ著大
 成績ヲ顯シタル事實ハ吾人及平素
 露佛同盟ヲ誠意歡迎スル人士ノミナラズ前モ歐
 羅巴ノ平和ヲ冀望スル者等ノ均シク満足トスル
 所ナリ尚ホ又此ノ事實ハ露佛ノ交誼交情ガ露
 國ト他國羅巴諸國トノ親睦ナルヲ係リ維持スル
 在 外 八 館

二毫モ嫌ガキモノズレトテ記明シ又露國ノ財政カ
 奈何ニ露國ニシテ露國ノ政界カ奈何ニ平和
 的方針ヲ模守シ居ルカヲ窺フニ是ルト同時ニ
 彼ノ佛國一新聞記者ガ露國ハ一極端ヲ以テ危險
 ナリトシ資本主義ニ杜塞心ヲ抱カシムルカ如キに至リ
 背理ノ言タルヲ知ルテ海バク加エ此ノ國際同盟
 ハ全く政體羅巴ノ均力平等ヲ目的トスルモノニシテ
 區々ニ射利性質ニ基キ成立セルモノナラズ
 ルトテ記スルニ是ル云云

以上者局者ノ意見ヲ廣ク衆人ニ告未セシカ者メ
 ニ存ス同日同日刊列ニ在藏者週報ニ掲載
 各地新聞紙上ニ轉載スルニ便ヲ留カトリ

露國ノ清國賠償金ヲ引当トシ四分利付
 外債ヲ募集スルノ件ニ付千九百二十年三月
 一日(露曆)露國皇清キリ大藏大臣宣
 示セラレタル勅令ノ條項ハ左ノ如シ

清國賠償金ヲ國庫ニ回収スル為メ之ヲ引当
 トシ一億八千五百五十万ルビノ額面ニ對シ四分
 利付公債ヲ發行スル事ヲ許可ス但シ此ノ金額ハ
 獨貨三億九千三百万ルビ、蘭貨二億三千百八
 十七万ルビ、英貨千九百二十五万七千磅ニ相當
 スル者ト爲ス而シテ其公債ノ爲メニ毎年支出スル
 ナ金額并其銷却高ハ千九百一十年新曆五
 月二十九日ノ上諭ニ基キ清國政府カ毎年露國

在外公館

政府ヘ支拂フベキ賠償金及其利子ト金ノ相
 當シ且ツ其整理ノ方法ハ左ノ條件ニ從フヘキモノトス

第一、本公債ハ清國賠償金ヲ引当トスル為メ
 二十年露國ノ債ト稱シテ國債其帳ハ記入
 スル事

第二、該公債ノ額面額面ハ獨貨五百万
 ルビ千七百萬ルビ及二千七百萬ルビノ三種ト爲シ

記名若クハ無記名ニテ發行スル事
 但シ獨貨千七百萬ルビハ露貨四百六十三
 万、蘭貨五百九千七百萬ルビ、英貨

第四、該公債ニ相當スル者ト計算スルハ
 第三、記名公債ヲ甲ヨリ乙ニ讓渡シ又記名
 シ無記名ニ無記名ヲ記名ニ交換スル等ニ



関スル細則ハ大蔵大臣之レヲ定ム

第四、公債証券ノ利率ハ壹々年四百分定メ
毎半期支払ヒ其計算ハ千九百一十年上
月十九日(新曆千九百一十年一月一日)ヨリ計算
スル

第五、該公債証券ハ千九百一十年上月五日
(新曆千九百一十年一月一日)ヨリ起算シ向テ
三十九年間ニ其額面金額ヲ銷却スルキ
モノトス而シテ其銷却ノ方法ハ特別抽籤
法ヲ以テ新曆千九百一十年九月七日(新曆
千九百一十年九月七日)ヨリ開印聯
邦北清議定書第六條ニ基キ清國
政府ガ立拂ノ所ノ賠償金立拂額ニ應
ジテ年々之レヲ銷却ス

在外ハ館

第六、千九百一十四年上月十九日(新曆千九百
一十五年一月一日)ニ至ル迄ハ銷却要スル
金額ハ前記第五條項ニ指示スル所ノ
金額ヲ超過スルカラス又同期日迄ハ其公
債ノ贖還ニ着手シ若クハ利率ノ引下等
ヲ為スルカラス

第七、利率ノ立拂及抽籤ニ依リ銷却スルキ
公債証券ハ露國ニ於テハ、ベルギーヲ以テ帝
國銀行ヨリ又獨逸ニ於テハ、ハルツ、和蘭ニ於
テハ、アムステルダム、英國ニ於テハ、ロンドン、
以上ノ諸處ニ於テ銀行ヨリ贖還セシムルハ、
第八、公債ノ利率ハ其立拂期日ヨリ向テ十
年間又抽籤ニ當リタル公債証券ハ銷却期



日ヨリ向ツ三十ヶ年有効ノモノトス
第九、該公債証書ハ露國ノ諸稅ヲ
免除セラルベシ

第十、大藏大臣ハ其指定スル銀行信用
商社等ヲシテ該公債証書ヲ發行セシ
ムベシ

第十一、該公債証書ハ政府請負事業
ノ擔保者クハ發行ノ上額金トシテ使用セラ
ル、場合ニ於テハ特權及利益ハ該公債
布ノ際大藏大臣ニシテ規定スベシ

第十二、該公債ノ募集ニ依リ得ル所ノ金額
ハ之レヲ被著者タル個人及会社ヨリ正當
ノ手續ヲ以テ請求シ政府ニ於テ在法ト認
定シタル金額ノ五拂ニ充テラシムル所ノ金額
凡テ私主鐵道會社ノ貸下金ニ歸スル、
モノトス

以上掲示シタル勅令ニ基キ大藏大臣ニ達カニ其
公債募集ノ規則ヲ定メ之レヲ公布セリ今ニ
奉旨ニ于テ是レヲ大藏省週報ニ記載セリ右公布
ニ當ル規則ヲ抄註セバ左ノ如シ

第一、千九百二十年清國賠償金引当四
分利付公債額一億八千九百九十五万円トシ
揚貨三億九千五百万円トシ、南貨二億三千百
八十七万円トシ、差債千九百二十五万七千餘
相当金額内一億三千九百九十九万円トシ即



ヲ獨貨三億コルシニ對スル公債証券書ヲ発
行スルニ付應募者ハ左ノ銀行商社ニ於テ
申込ヲ爲スベシ

伯林市

マンゲルソン商會

ブレイトフレーデル商會

獨逸割引銀行

伯林商業會議所

ロルンヤウエル商會

フランクフルト市

同市割引銀行

アムステルダム市

リップマン及ロゼンタリ商會

在外公館

聖彼得堡市

露清銀行

高岡商業銀行

同市割引及貸付銀行

露亞亞外國通商銀行

カウヂヌカハスチ商業銀行

第二、應募手續ハ前項ニ示ス所ノ諸銀行
商社ヨリ公取ル迄數ニ就テ見ルベシ

第三、第一項ニ掲ケタル公債應募集金額ト
今回発行高トノ差額ハ帝國貯蓄銀行

ツレラニシテ割引及レシム

第四、該公債証券ハ大藏大臣ヨリ制規ニ
基テ各年毎ニ該公債ノ利ヲ公示ス

ル相場表ノ價格ニ從ヒ左ノ擔保トシテ改
存ニ差入ルコトヲ得

(一) 政府職員事業ノ擔保

(二) 内地諸税ノ保稅擔保

(三) 海關稅ノ保稅擔保

第五、前項ノ規定ニ基キ政府が毎半期
ニ公布スル石價ノ價格ハ其額面ノ百分
九十より下ルコトヲ得バカラズ

在外公館

文書備考

別紙

浄書 校正 浄

明治廿五年 六月廿二日 起 廿五日 止
同 年 六月 廿二 日 發 遣

政務局長

一ノ

主任

七友

送第 一〇九 號

送第 一〇九 號

送第 一〇九 號

榎 寛 右大臣

内海 内務大臣

尾 崎 大 右大臣

山 中 海 軍 大 臣

其 川 通 彦 大 臣

青 木 滄 平 大 臣

海 軍 大 臣

兼 地 方 部 大 臣

三十五年七月二十日 發 遣

外 務 省

平 田 襄 三 右大臣

岩 園

大 村 武 敏 大 臣

法 國 駐 日 公 使 館 長

集 賢 堂 大 學 司 長

政 務 次 長

報 告 官

大 臣

別紙 一ノ下 七友 奉 呈 長 官 九 号 印 信 附 送 謹 啓